庭園 協会ニュース 第73号

社団法人 日本庭園協会
東京都新宿区西早稲田 1-6-3 福田ビル 301
〒169-0051　TEL:03-3204-0595（FAX 兼用）
E-mail: gsj20@m7.dion.ne.jp　URL: http://nitteikyou.org/
編集者：広報委員長・柴田正文／委員・小沼康子、加藤精一
題　字：故・上原敬二
発行日：平成25年7月31日

球体の石積みに取り組む研修生達（撮影：吉田 裕之）

次世代に伝えていく使命

高橋 良仁

私が日本庭園協会に入会したのは30代の時です。雑誌「庭」に掲載された伝統庭園技塾で岩城亘太郎理事長の指導の下、露地研修を行なったという記事を目にしたのがきっかけでした。庭作りについていろいろと悩んでいた時でもあり、すぐに協会への入会を申し込みました。

そして、熱海、新潟での技塾に参加し、多くの先生方に庭作りの技術を直接指導して頂いた事はそれまで修業らしい修業を積んでこなかった私にとっては一筋の光明を得た思いでありました。技塾自体は数日という、わずかな時間でありましたが、私の作庭人生にとっての基礎となる体験を得た重要な時間になりました。

現在、当時の私の年頃の若者はどうなのでしょうか。若い時から志高く、迷いなく修業に励む人もいるでしょうが私の様に、この道に入ってからあわてて修練をしなくてはと考える人もいるのではないでしょうか。ただし、今の世の中、私の若い時代とは随分と様変わりしました。情報手段の発達により、何らかの団体に属さずとも、遠方でも若い庭師同志で互いに結びつきを持ち、グループを作り、研究会を立ち上げたり、その他いろいろな活動を行っていると耳にします。しかし、技を磨く実践の場が少ないという事も聞いています。日本の伝統的作庭技術を使っての庭作りを実際に見たり体験したりする機会が無いという人が多いのが現実です。インターネットを開けば、庭の画像は数知れず表示されますが、それはあくまで画面上の事であり、庭を作りたいとか、技術を覚えたいという気持ちが強くても気持ちだけが空回りしてしまう。その様な学びの場が少ないというのは、日本の伝統的作庭技術の伝承という点でも危惧するところです。

その様な若者達に日本の庭を伝えられるのは幅広く多面的な性格を持つ日本庭園協会であると思います。近年の本協会総会出席者をみると若者の姿が少ない様に感じますが、世界に誇る庭園文化を持つ日本の庭作りを次世代へ継承していく為にも、日本庭園協会の存在意義は重要であると考えます。

（理事）

河原武敏先生とご一緒した日々

内田 均

河原武敏先生は、私の大学の恩師であり、職場の上司、庭園学の師匠でもありました。37年間の長きにわたるおつきあいでした。

私が農大に就職したてのころ、もっと勉強しなさいと、庭園協会への入会を勧めて下さいました。

平成3年夏には当協会主催の「中国の西湖に舟を浮かべて仲秋の名月を観よう」というツアーにご一緒しました。先生は、8日間、全ての庭園の解説をひとりでなされ、その博学ぶりに驚きました。私は、勉強のために、先生の解説を全てカセットに録音していました。それを西湖に落としてがっかりしている私を、慰めて下さったのも、先生でした。

厚木農場では、先生の下で、飛石・蹲踞実習を11年間担当しました。作業服に地下足袋、頭には日本手拭いという颯爽とした先生の姿は今でも目に浮かびます。自前の柄杓を手に、手水鉢と前石との間の見極め、柄杓の使い方などを熱心に指導されました。

先生の著書の中でも「名園の見どころ」（農大出版会）は、13年間農大社会通信教育部の月刊誌に連載した一六十の庭園をまとめた力作です。この本は、当協会の鑑賞会の講演会や見学会で活用され続けています。また、「平安鎌倉時代の庭園植栽」（信山社）は先生の学位論文に手を加えて読みやすくしたもので、16年間コツコツと積み上げられた研究成果です。是非手に取ってみて下さい。

平成13年3月、先生は農大を定年退職なされましたが、その後も毎年新年会や夏の旅行会にご一緒させて頂きました。

昨年の9月2日には、天狗で有名な大雄山最乗寺の見学にご一緒しました（写真）。今年の1月16日の新年会で、「中国庭園の研究成果が本としてもう少しで完成する。まだまだ研究しなければ」、とおっしゃっておられたのに、完成前の急逝は、さぞや残念なことだったでしょう。

「一生青春・一生勉強」の河原先生を見習って日々を過ごしていきたいと思っております。

ご冥福をお祈りします。合掌。

（理事）

お元気だった晩秋の見学会

外柔内剛の〈東（あずま）・庭匠〉吉田正吾氏逝く

龍居 竹之介

今年のゴールデンウィーク後半がスタートした5月3日、日頃尊敬してやまない東京・駒込の巨匠、吉田正吾さんが亡くなった。91歳の天寿を全うされたのだが、正直なところ残念でたまらない思いで一杯だ。

ときどき令息の正夫さんにご様子は伺っていたのですが、なかなかご機嫌伺いにも参上できないことをお詫びするばかりで、ご他界のお知らせを受けたときはまず自分に腹がたった。「何でもっと教えて頂かなかったのだ」という思いばかり先に立ったからだ。

東京高等造園学校の級友には荒木芳邦さん、井上卓之さんら花形造園家が多かったが、吉田さんは同校で指導を受けた茶道家、田中仙樵師に強く引かれ、その影響を受けつつ、父君の手元で身に付けた江戸から東京への風合いを持った作庭姿勢を基本にした、屈託ない露地づくりという世界を、いつの間にか確実に築きあげて行かれた。

その庭には私など子供時分から親しんだ、雑駁な材料も自在にこなしつつおおらかな雰囲気を滲み出せるという関東風の味がいつも漂っていた。だから吉田さんは最後の東・庭匠だと信じていた。一方で誰への指導も熱心で平等だったことにも大正の江戸っ子が感じれた。上の写真を提供してくれた加藤平一氏のように慕い続けた人が多いのもそのせいだ。ご冥福を祈る。

（名誉会長）

加藤平一氏（左）を励ます集まりでの吉田正吾氏（右）。中央は吉川需・元理事長

平成二十五年度

社団法人 日本庭園協会定期総会開く

平成二十五年三月十五日　東京・明治神宮文化館

社団法人日本庭園協会は、平成25年3月15日（金）午後一時から東京・代々木の明治神宮文化館で午前の評議員会に続き開催した。

【評議員会】 午前十一時。楠の間

司会＝望月敬生常務理事

評議員57名中、出席46名（委任状出席11名）で、定款第二十一条により、成立。金子直作会長が挨拶に続き議長として議事進行。第一号議案「平成二十四年度事業報告および収支決算の件」、第二号議案「平成二十五年度事業計画（案）および収支予算（案）の件」、第三号議案「一般社団法人」への移行認定手続き経過報告、新定款（案）、新会費規定（案）の件」、第四号議案「役員改正の件」、第五号議案「総会議決事項の委任の件」は総会において一括審議を諮るという事で可決。その他として、「支部一括納入の廃止、総会費の廃止、日本庭園協会賞の規約資料」などが報告された。

【総会】 午後一時。椎の間

司会＝柴田正文常務理事

正会員495名中294名（委任状出席216名）で、定款第二十一条により成立。大平暁副会長の開会の辞、金子直作会長の挨拶の後、会長が議長席に着き議事録作成者に望月敬生常務理事、議事録署名者に鈴木悦子理事、内田均理事を指名、議事にはいる。

○第一号議案

「平成二十四年度事業報告の件」

事業報告＝廣瀬慶寛常務理事
決算報告＝高橋康夫常務理事
監査報告＝野村脩監事

1　現況（平成25年2月28日現在）

①事務所…〒169―0051
東京都新宿区西早稲田一―六―三
福田ビル301号
電話…03（3204）0595
（FAX兼）
URL：http://nitteikyou.org/
E-mail：gsj20@m7.dion.ne.jp

②会員数　正会員495名（49名減）
特別会員／名誉会員12名（3名増）
維持会員3社（3社減）
賛助会員9名（11名減）
総会員数519名（60名社減）
※カッコ内の数字は前年比

③本部委員会および特別委員会
（カッコ内は委員長）
総務委員会（望月敬生）財務委員会（高橋康夫）広報委員会（柴田正文）技術委員会（廣瀬慶寛）鑑賞研究委員会（青木美樹子）特別委員会／文化財指定庭園調査委員会（金子直作）日本庭園協会賞選考委員会（金子直作）国際活動委員会（三橋一夫）

④鑑賞会および支部（カッコ内は会長＝鑑賞会ブロック、支部長＝支部）
鑑賞会ブロック（青木美樹子）
北海道南支部（外山正幸）東北支部（粟田幹夫）茨城県支部（飛田幸男）栃木県支部（新藤志延）埼玉県支部（厚澤秋成）千葉県支部（加藤新一郎）東京都支部（上野周三）神奈川県支部（本川勇）新潟県支部（伊藤春男）石川支部（武部外喜寛）静岡県支部（石井敬明）愛知県支部（高見紀雄）近畿支部（山田昌次）岡山県支部（三宅秀俊）広島県支部（佐藤滋雄）鳥取県支部（石亀靖）山口県支部（殿井正敏）香川県支部（水本隆信）

2　事業の概要

【本部事業】

⑴会議の開催
①定期総会　東京明治神宮文化館（3・16）②常務理事会　小石川後楽園涵徳亭 他（2・4）、他8回）
③支部長会　小石川後楽園涵徳亭（9・12）（12・10）

⑵技術事業
①若手向け庭園技術連続基礎講座の開催（3・25）（4・22）（5・27）（6・24）（7・29）②岡山県支部・本部共催講座（7・15～16）③栃木県支部・本部共催シンポジウム　足利市（11・10～11）

⑶広報事業
①「庭園協会ニュース」の発行第67号（1・22）第68号（3・16）第69号（6・30）第70号（11・30）②GSJミニ・ニュースNo.5（1月）No.6（3月）No.7（4月）No.8（5月）No.9（7月）No.10（10月）No.11（11月）

⑷その他
①文化財指定庭園保護協議会総会・見学会　都道府県会館、旧浜離宮庭園ほか（6・7～8）②国際日本庭園シンポジウム下見・打ち合わせシドニー（7・22～25）③国際日本庭園シンポジウム シドニー（8・30～9・5）④北米日本庭園協会第1回会議及び講演会 コロラド州デンバー市植物園（10・10～14）

【鑑賞会ブロック事業】

⑴会議の開催　①総会 日本女子大学桜楓2号館（3・24）

⑵講演会　（3・24）

⑶庭園見学会　①春季見学会「和歌山県（根来寺、粉河寺、和歌山城紅葉渓庭園、養翠園ほか）」（5・16～17）②秋季見学会「箱根（神仙郷、箱根美術館、箱根強羅公園）」（11・15）

【支部事業】

〈北海道南支部〉

⑴会議の開催　①支部総会、懇親会（1月）②本部総会（3月）③支部役員会議（4月）④役員会（12月）

⑵技術事業　①支部講習 図面（函館造園建設業組合）（5月）②支部講習 水琴窟・沼津垣ほか（静寂之郷）（6月）③支部講習 園路石積（静寂之郷）（7月）④支部講習 渓谷の鑑賞（静寂之郷）（9月）⑤観楓会（静寂之郷）（10月）⑥庭園見学会（11月）

〈東北支部〉

⑴会議の開催　①支部定期総会（パレスへいあん）（2・26）

⑵見学会　東京名勝庭園見学会（小石川後楽園、六義園）（11・17）

〈栃木県支部〉

⑴会議の開催　①支部総会（5・30）②反省会（12月）

⑵技術事業　①各月1回シンポジウム準備会議（6～10月）②シンポジウム「足利の歴史文化と庭園」（11・10）

⑶見学会　庭園見学会（11・11）

〈茨城県支部〉

⑴会議の開催　①支部役員会（2・15）②（社）日本庭園協会評議員会・総会出席（3・16）③支部総会（水戸市内中川楼）（6・18）④支部長会 小石川後楽園涵徳亭（9・12）⑤支部長会　日中友好会館豫園（12・10）

⑵技術事業　①向上庵池周り剪定下見（3・9）②向上庵池周り強剪定（3・22～25）③向上庵茶会（4・8）④廣瀬常務理事氏を迎え向上庵下見（8・9）⑤向上庵の池及び岩肌清掃（土浦市小野）（9・8～9）⑥庭園及び技能五輪視察研修（長野県諏訪方面）（10・28～29）⑦向上庵茶会（11・25）

⑶講演会　遠州寺子屋キャラバン「遠州の庭」龍居名誉会長講演（水戸市内）（2・26）

〈埼玉県支部〉

⑴会議の開催　①役員会 岩槻ジョナサン（1・11）②総会・新年会 伊勢丹クローバールーム（1・22）③役員会 岩槻ジョナサン（5・7）④役員会 岩槻ジョナサン（7・30）⑤役員会 岩槻鮒又（10・6）⑥役員会（12月）

⑵技術事業　①県立いずみ高等学校創立50周年記念事業「球体の石積み空間」（2・19）（4・2）（4・21～22）（6・16～17）（7・7～8）（9・1～2）除幕式（10・19）②いずみ高校　授業の協力　県立いずみ高等学校（5・22）③作品発表会　浦和伊勢丹クローバールーム（12・9）

〈千葉県支部〉

⑴会議の開催　①臨時会議 マキの整枝技術講習会について他 支部長宅（2・29）②会計監査（5・23）③支部定例総会 サンライズ九十九里（1泊）記念講演 千葉県農林総合研究センター 室長 柴田忠裕先生演題「樹木の病害虫」（5・27）④役員会（6・2）⑤役員会（7・27）⑥庭園技塾に関する打ち合わせ（8・19）⑦役員会（9・9）⑧忘年会（12・16～17）

⑵技術事業　①マキの木作り整枝実技研修会（4・7～8）②技塾 流れ周囲石積み（4・21～22）③技塾 御影石運搬、石積み（野面積み）（5・19～20）④技塾 石積み（野面積み）午後5時より竹細工の講習 講師 勢司恵美（6・24）⑤庭園技塾 野面積み、滝、流れコンクリート養生（9・16）⑥庭園技塾 野面積み、滝、流れ 給排水設備（10・14）⑦庭園技塾 野面積み、滝、流れ 給排水設備（11・11）⑧雪吊り 石のミノル展示場にて（11・25）⑨庭園技塾 池周辺石積み、茶室周り修景、茶室建築（12・2）

⑶その他　岩崎会員 国際日本庭園シンポジウムに参加（8・30～9・5）

〈東京都支部〉

⑴会議の開催　①幹事会 安藤先生の講演会打ち合わせ（1・14）②幹事会 安藤先生の講演会を終えての反省会（1・29）③「雑木の庭の剪定の実測図製作」講習会の打ち合わせ 新潟支部を訪れる（2・5）④支部長会出席（2・14）⑤幹事会 立川（2・25）⑥本部総会出席（3・16）⑦「雑木の庭の剪定と実測図製作」講習会の打ち合わせ 青梅市 川合玉堂旧宅偶庵（3・25）⑧東京都支部総会 国際文化会館（5・13）⑨幹事会「都市の中の里山を考える」講習会打ち合わせ（7・22）⑩納会（11・24）

⑵講演会　①安藤邦廣　筑波大教授「里山に学ぶ茅葺きの話」日本女子

大桜楓会館（1・22）②「都市の中の里山を考える」講演　龍居竹之介先生　吉祥寺コピス屋上（10・13）
⑶見学会　原美術館 杉本博司展（5・13）
⑷講習会　①「雑木の庭の剪定の実測図製作」講習会（4・21～22）中止 ②雑木剪定 講師 中村寛氏、平井孝幸氏 吉祥寺コピス屋上（10・13）

〈神奈川県支部〉
⑴会議の開催　①定期総会 23年度事業・決算報告、24年度事業計画、収支予算（1・30）②第1回三役会議（3・6）③本部総会（3・16）④第2回三役会議（4・6）⑤第3回三役会議 県立相模原公園に研修会場を打診（5・24）⑥第4回三役会議 県立相模原公園に施工計画書提出等（6・6）⑦第1回役員会 シンポジウムの参加要請等（7・10）⑧臨時役員会（9・18）⑨第2回役員会（11・20）⑩第5回三役会議（11・20）
⑵技術事業　①第1回支部研修会「大徳寺垣」下準備：若葉造園内（1・6）②第2回支部研修会「大徳寺垣」下準備…若葉造園内（1・22）③第3回支部研修会「大徳寺垣」施工…鎌倉円覚寺塔頭内（2・4～6）④第4回支部研修会 「庭門を造る」1回目・場所…西公会堂（3・10）⑤第5回支部研修会 「庭門を造る」2回目・場所…西公会堂（6・12）⑥第6回支部研修会 「庭門を造る」3回目・場所…西公会堂（8・28）⑦第7回支部研修会「庭門を造る」4回目・場所…西公会堂（10・16）
⑶その他　国際日本庭園シンポジウムinシドニー　本川・田中・本川（誠一）・座間・星 5名参加

〈新潟県支部〉
⑴会議の開催　①役員会兼新年会（1・17）②役員会、第22回新潟県支部総会（2・29）③役員会（6・13）④役員会兼納涼会（7・28）
⑵技術事業　①貞観園　緊急修繕工事（7・12）②貞観園　一部修繕工事（7・19）
⑶講習会　支部勉強会 平成24年度新潟県文化財指導者講習会 新潟県庁（8・28）
⑷見学会　県内研修 柿崎方面（11・23～24）
⑸田中泰阿弥研究会　①第9回『手紙を読む会』田中泰阿弥研究会（1・14、2・11）②第10回『手紙を読む会』田中泰阿弥研究会（3・10以降8月まで6回開催）③第11回『手紙を読む会』田中泰阿弥研究会（9・8以降12月まで4回開催）

〈石川支部〉
⑴研修会　伊豆箱根視察研修 MOA美術館、箱根美術館、城ケ崎海岸、河津七滝など（5・20～22）
⑵講習会　①露地・茶室・喫茶の心得 小松市 玄庵（9月下旬から10月上旬）②千葉県支部雪吊講習会補助 金沢（10・23）

〈静岡県支部〉
⑴会議の開催　①支部総会および視察研修 対泉閣（3・4～5）②日本庭園協会総会 明治神宮文化（3・16）③支部役員会（4・14）④支部役員会 今後の活動について（8・26）⑤支部長会 小石川後楽園（9・12）
⑵技術事業　①庭園研修　小杉忠広氏の修士論文「芝から苔への遷移が造る空間美」の講演　安藤忠雄設計の神戸コロッケ工場、小杉造園作の久米吉こんにゃくを見学（4・22）②庭園研修　コナラ、クリの丸太を使った縁台作り 丸太同士をほぞ・ほぞ穴で組む（7・22）

〈愛知県支部〉
⑴会議の開催　支部総会 泰福楼（刈谷市）（2・18）
⑵技術事業　①ワークショップ（石積み、三和土）河本邸（豊明市）（6・30）②ワークショップ（7・7）③「第1回石積み技能講習会」（株）おしゃ楽共同開催（常滑市）（11・17～18）
⑶見学会　「京都見学会」　北村美術館（四君子苑）他（10・26）
⑷その他　①ペチャクチャナイト名古屋トークイベント参加（名古屋市）（2・23）②「茶会参加」黒笹会（日進市）（10月）③シンポジウム「緑を取り入れる建築」地元建築家との交流（名古屋市）（11・12）

〈近畿支部〉
⑴会議の開催　①支部総会 京都東急ホテル（4・21）②役員会 京都東急ホテル（8・4）
⑵その他　国際日本庭園シンポジウムへ参加 シドニー（9・1～3）

〈岡山県支部〉
⑴会議の開催　①役員会「風来坊」倉敷市（2・27）②（社）日本庭園協会総会「明治神宮文化館」（3・16）③支部総会「かつさと」倉敷市（3・19）④役員会「山陽ハイツ」倉敷市（4・23）⑤役員会 吉備中央町（6・9）⑥役員会「風来坊」倉敷市（7・2）⑦役員会「かつさと」倉敷市（7・9）⑧役員会「かつさと」倉敷市（11・19）
⑵講習会　岡山県支部・本部共催講座　山陽ハイツ～吉備中央町～備前市（7・15～16）

〈広島県支部〉
⑴会議の開催　①支部総会 喫茶たんぽぽにて（1・29）②支部役員会 万代商事（9・7）
⑵技術講習会　旧閑谷学校（岡山県備前市）石塀の1／2模写・製作
①石塀　万代商事土場（1・7、8、15、22）（2・5、13、18、29）（3・4、11、18、25）（5・13、20、27）（6・3、10、17）（9・30）（10・7、23）（11・4、11、25）（12・2続行中）
⑶講習会　岡山県支部講習会・見学会参加（7・15～16）

〈鳥取県支部〉
⑴会議の開催　支部総会 石亀芳樹園（4・21）

〈山口県支部〉
⑴会議の開催　①幹事会 下関（5月）②幹事会 下関（6月）③支部総会・研修会（7月）④幹事会（10月）
⑵講習会　本部・岡山県支部共催講演・見学会に出席1名

〈香川県支部〉
⑴会議の開催
①支部総会 琴平町 つるや旅館（5・19）②役員会 高松市（6・25）
⑵技術事業　善通寺フラワー&ガーデンフェスタ参加13名 善通寺（5・19～20）
⑶講演会　岡山県支部講習会参加8名（7・19～20）
⑷その他　国際日本庭園シンポジウム参加1名 シドニー（8・30～9・5）

以上の報告に続いて決算報告と監査報告が行われた結果、満場異議なく了承、第一号議案は可決した。

○第二号議案
「平成二十五年度事業計画（案）および収支予算（案）の件」
計画説明＝廣瀬慶寛常務理事
予算説明＝高橋康夫常務理事

1　事業計画の概要

今年度は本協会の創立95周年にあたります。日本庭園協会は、大正7年（1918年）に創立され、その歴史は日本造園学会よりやや古く、造園関連団体では最古参の協会でございます。設立当時の庭園協会について上原敬二先生は「学会ではなく、研究専門でも業界でもなく、いわんや政治団体ではなく、利害を超越し庭園趣味を楽しむ懇親会」と言われていたそうです。現在では庭の魅力に取りつかれた約520人の会となりました。

今年度は創立95周年ではありますが、一般社団法人への移行手続きという大きな事業も控えておりますので、先ずは一般法人化を行い、そして100周年に向けての記念事業の準備を始める年としたいと思います。

また、25年度事業は、次ページからの事業を中心に活動したいと存じます。

（金子直作＝会長）

開会挨拶する金子会長

【本部事業】
⑴本部事業の推進　①「一般社団法人」への移行年度にあたり、これまでの事業を見直して、法人としての基礎を固めることとする。特に若手造園家の育成に主眼を置いた事業展開を図る。そのために支部との連携をより充実させる。②本協会設立趣旨を広く普及すると共に新たな会員の入会を推進する。③会員とのコミュニケーションの充実及び本協会活動の周知を図るためホームページをより充実させる。④日本庭園協会賞・奨励賞等の規約を作り、各種表彰を積極的に行う。
⑵総会等の開催　定期総会 東京明治神宮 文化館（3・15）
⑶総務事業　①特例民法法人日本庭園協会の移行認定 ②各役員会の開催（常務理事会は年10回、理事会は年2回、支部長会は年2回を予定）③会員名簿作成
⑷技術事業　①若手向け庭園技術連続基礎講座第5回開催（5・26、6・30、7・28、9・29、10・27）②香川県支部・本部共催　講演・見学会（6・8～9）③茨城県支部・本部共催講座（10・19～20）④文化財指定庭園保護協議会参加
⑸広報事業　①庭園協会ニュースの発行　第71号（1月20日発行）をはじめ年間4回発行予定 ②GSJミニ・ニュースの発行 全会員への葉書通信 毎月発行（事業計画のない月は除く）③協会機関紙「庭園」の刊行を目指し、「庭園」編集検討委員会を設置する。
⑹国際活動事業　①北米日本庭園協会（NAJGA）の関係者と連絡を取り、資料及び意見の交換をして当協会と交流を図る。②アメリカ、ポートランド市の日本庭園の役員・理事（10名位）が来日の予定であり交流を図る。（3月）③国際シンポジウム開催の準備を開始するための検討委員会を開催する。

【鑑賞会ブロック事業】
⑴会議の開催　①総会 日本女子大学桜楓2号館（3・23）
⑵講演会　「庭の顔・その裏表」龍居竹之介名誉会長 日本女子大学桜楓2号館（3・23）
⑶庭園見学会　①春季見学会（日帰り）「駿河路の庭を行く」（5月中旬～下旬）②秋季見学会「桑名・松阪周辺の庭を訪ねて」（11・14～15）

【支部事業】
〈北海道南支部〉
⑴会議の開催　①支部総会・新年懇親会（1月）②役員会（4月）③観楓会（10月）④役員会（12月）
⑵講習会　石を割る・削る等基本を知る、自然に学ぶ・流れ等（5～9月）
〈東北支部〉⑵講習会　石を割る・削る等基本を知る、自然に学ぶ・流れ等（5～9月）
〈東北支部〉
＊今年度より、活動休止
〈栃木県支部〉
⑴会議の開催　支部総会（役員改選）（3月下旬）
〈茨城県支部〉
⑴会議の開催　①支部役員会（1・25）②支部総会 中川楼（水戸市）（2・23）③日本庭園協会評議員会・総会（3・15）④支部役員会（8・19）
⑵技術事業　①剪定講習会　（県立歴史館）（4・6）②向上庵庭測量（11・15～17）
⑶講習会　本部・支部共催講座（水戸市）（10・19～20）
〈埼玉県支部〉
⑴会議の開催　①総会・新年会 鮒又（岩槻市）（1・20）②作品発表会（12・8）
⑵技術事業　①泥深庵周辺管理 県立いずみ高等学校（2・17）②第1回研修 県立いずみ高等学校（6・8～9）③第2回研修 県立いずみ高等学校（7・7）④第3回研修 県立いずみ高等学校（10・26～27）
⑶見学会　研修旅行（9・28～29）
〈千葉県支部〉
⑴会議の開催　①庭園協会総会 明治神宮（3・15）②支部総会（5月）③役員会（8月）
⑵技術事業　①池周辺石積み、蹲踞、飛び石、延段（1・13～14）②講習会 竹細工（2・24）③濡れ縁（ウッドデッキ）、立ち手水鉢、竹垣、土壁その他（2・10～11）④濡れ縁（ウッドデッキ）、浄化槽周辺修景、整地その他（3・17）⑤庭園技塾 植栽ほか（4・7）⑥台杉の剪定講習会（7月）
⑶見学会　庭園見学会、茶室政策の講習会（6月）
〈東京都支部〉
⑴講演会　①「日本庭園と石造美術品」尼崎博正先生 対談「石工の技―創造する伝統」尼崎博正先生、西村金造氏 日本女子大学桜楓館二号館（4・7）②現代芸術家 杉本博司氏講演（高松宮殿下記念世界文化賞受賞 紫綬褒章受章）（日時未定）
〈神奈川県支部〉
⑴会議の開催　①第1回役員（1・16）②定期総会 24年度事業・決算報告、25年度事業計画・国際シンポジウム参加報告会、交流会（1・27）③第1回 三役会　横浜（3・2）④本部総会（3・15）⑤第2回 役員会（7・9）⑥第3回 役員会（11・12）
⑵技術事業　①第1回支部庭園研修会 庭門をつくる（1・27）②第2回庭園研修会 庭門をつくる県立相模原公園内（2・22～25）③第3回庭園研修会 相模原公園内にて庭門軒下修景及び剪定 袖垣（4・7）④第4回庭園研修会「庭の設計を学ぶ」1回目（5・14）⑤第5回庭園研修会「庭の設計を学ぶ」2回目（6・11）⑥第6回庭園研修会「庭の設計を学ぶ」3回目（8・20）⑦第7回庭園研修会「庭の設計を学ぶ」4回目（10・9）
〈新潟県支部〉
⑴技術事業　①支部主催「第19回伝統庭園技塾」貞観園（日時未定）②実測調査予定（日時未定）
⑵勉強会　①県外研修会 京都方面（日時未定）②県内研修会 下越方面（日時未定）③企画展 丸山副幹事長担当（日時未定）
⑶田中泰阿弥研究会　①田中泰阿弥研究会 第12回手紙を読む会（毎月第2土曜日）（3・9、4・13、5・11、6・8、7・13、8・10）
〈石川支部〉
⑴会議の開催　役員会 随時
⑵技術事業　講習会 自然石、石造物の産地の見立術 会場 村瀬造園、荒屋園芸、向川外樹園圃場　講師 支部役員（6月頃）
⑶研修会　ミホミュージアム施設見学会（滋賀県甲賀市）（10月下旬）
〈静岡県支部〉
⑴会議の開催　支部総会（2・24）
⑵技術事業　視察研修、技術研修 会員の提案、希望により随時開催
〈愛知県支部〉
⑴会議の開催　①支部総会 刈谷市産業振興センター（刈谷市）（2・16）②定期会合（名古屋市）（4月）③定期会合（東三河）（8月）④定期会合（刈谷市）（10月）⑤定期会合（12月）⑥愛知県支部総会（2月第3土）
⑵技術事業　①技能講座VOL.1 庭園見学会 桂垣の作り方 講師 今井造園（岡崎市）（3・10）②技能講座VOL.2庭園イメージパース基礎 i 講師 高見庭苑 刈谷市産業振興センター（刈谷市）（5・19）③技能講座VOL.3 庭園イメージパース応用 ii 講師 高見庭苑 刈谷市産業振興センター（刈谷市）（7月）④技能講座VOL.4 石積み講座基礎　講師 鈴木庭苑　おしゃ楽（常滑市）（9月）⑤技能講座VOL.5 講座内容未定 講師　支部員（11月）⑥技能講座VOL.6 講座内容未定（1月）
⑶その他　講演会「あいちサイエンスフェスティバル2013」参加 国際植物の日月間 主催国立大学法人名古屋大学「街のみどりが子どもの感性を育む」トークイベント 高見紀雄（支部長）×齋藤正吉（建築家）
〈近畿支部〉
⑴会議の開催　①支部総会 京都東急ホテル（4月下旬）②役員会（必要に応じて随時）
⑵見学会　京都市内及び近辺　文化財庭園研修）（未定）
⑶その他　必要に応じて随時
〈岡山県支部〉
⑴会議の開催　①役員会（2・13）②支部総会（3・18）
⑵その他　以降未定
〈広島県支部〉
⑴会議の開催　支部総会（1・27）
⑵技術事業　石積み技術講習会 閑谷学校石塀 6月末完成を目指し24年度に引続き技術講習を行う
⑶見学会　①閑谷学校石積み修復の見学（2・2）②直島アートの見学（7～8月）
⑷その他　薬剤に関すること、縦庭に関すること、炭焼き講習については事業の進捗状況に応じて役員会にて相談する
〈島根県支部〉
⑴会議の開催　支部総会（石亀芳樹園）
⑵その他　他支部との交流、情報交換
〈山口県支部〉
⑴会議の開催　①幹事会 下関市 研修旅行について（1月）②幹事会 下関市 研修旅行について（2月）③幹事会 下関市 研修旅行反省会（3月）④日本庭園協会総会（3・15）⑤支部総会 山口市（5月）
⑵見学会　研修旅行　姫路　大北望氏作庭見学、三木美術館、あずきミュージアム（2・3～24）
⑶その他　香川県支部・本部共催講座に研修旅行として出席予定
〈香川県支部〉
⑴技術事業　①善通寺フラワー&ガーデンフェスタ2013（5月）②本部共催講演・見学会 講師 廣瀬慶寛氏、越智將人氏 見学 瀬戸大橋記念公園、四国村、庵治石開発協同組合、ストーンミュージアム（6・8～9）
⑵見学会　庭園見学会（8月）

○第三号議案
「一般社団法人への移行認定手続き経過報告、新定款（案）、新会費規定（案）の件」
趣旨説明＝望月敬生常務理事

審議の結果、全員異議なく、別紙（総会資料）原案のとおり可決した。また、本定款は、今後より精査する予定であるため、内閣府からの指導による軽微な修正・変更等は理事会に一任することも併せて承認した。また、移行後の役員に関しては、24年3月16日の定期総会で可決された者を維持することについても承認を得た。

○第四号議案「役員改正の件」
趣旨説明＝望月敬生常務理事

名誉会員樋沼恕氏ご逝去、評議員岩谷浩三氏ご逝去、評議員今泉健寿氏退会のため、役員からはずれると説明された。

○第五号議案
「総会議決事項の委任の件」
趣旨説明＝金子直作会長

総会議決事項の、常務理事会への委任が可決された。平成25年度事業計画・収支予算の補正及び特別会計・役員改正に関する件。

○その他
東北支部長粟野氏より、「東北支部は諸事情により活動を休止することに決定。4月に支部総会を開き休止、解散します。有志で活動しますが、長い間ありがとうございました。」という発言があった。

総会は、青木美樹子副会長の閉会の辞で、無事終了した。引き続き会場を移して、懇親会が開かれた。

懇親会場で「日本庭園協会の内外」というテーマで龍居名誉会長の記念講演も行われた。

懇親会会場にて講演する龍居名誉会長

収支計算書に対する注記

1．資金の範囲

資金の範囲には、現金及び預金、未収会費、立替金及び未払金、前受会費、仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2．に記載するとおりである。

2．次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期末残高
現金及び預金	1,585,051	1,378,951
未収会費	2,547,080	2,982,080
立替金	0	0
合　計	4,132,131	4,361,031
未払金	1,086,345	2,478,000
前受会費	311,000	111,000
預り金	6,000	161,110
合　計	1,403,345	2,750,110
次期繰越収支差額	2,725,786	1,610,921

貸借対照表

平成 24 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額	科　目	金　額
Ⅰ　資産の部		Ⅱ　負債の部	
1．流動資産		1．流動負債	
現金	117,857	未払金	2,211,000
普通預金	129,517		
振替預金	4,176,219		
通常預金	22,231		
未収会費	572,000	流動負債合計	2,211,000
前払金	75,000	負債合計	2,211,000
		Ⅲ　正味財産の部	
		1．一般正味財産	2,881,824
流動資産合計	5,092,824	正味財産合計	2,881,824
資産合計	5,092,824	負債及び正味財産合計	5,092,824

財産目録

平成 24 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	
現金預金	
現金手許有高	117,857
普通預金　みずほ銀行　江戸川橋支店 口座番号　1716382	129,517
普通預金　りそな銀行　早稲田支店 口座番号　1441361	4,176,219
振替預金　ゆうちょ銀行 ＃00110-5-76081	22,231
通常預金　ゆうちょ銀行 ＃10040-50368701	572,000
未収会費	
うち平成 22 年分会費　52,000	
平成 23 年分会費　221,000	
平成 24 年分会費　299,000	
前払金　家賃前払	75,000
資産合計	5,092,824
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	
未払金※	2,211,000
負債合計	2,211,000
Ⅲ　正味財産	2,881,824

※未払金内訳

H24 年度会費全納報奨金	258000
事務局給与	1,300,000
鑑賞会補助金	200,000
会計事務所顧問料 H24 年分	164,000
法律事務所顧問料H24 年後期分	189,000
公益法人申請費用 H22 年分	100,000
	2,211,000

監　査　報　告　書

下記監事３名は 社団法人日本庭園協会 において、会長の提出した平成 24年度における会務の執行を総括した会費収入の「活動振興費」の内訳並びに「収支計算書」「正味財産増減計算書」「貸借対照表及び財産目録」等につき監査した。

監査の結果、会務の執行は当該協会の定款に基づき誠実に行なわれており、正確に処理されていることをみとめます。

平成 25 年　3 月　11 日

社団法人　日本庭園協会
監事　野村　脩
同　大成　白歩
同　高梨　節子

平成 24 年度収支計算書

平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目	①24 年度予算額	②24 年度決算額	②−①増減
Ⅰ　事業活動収支の部			
1，事業活動収入			
入会金収入	150,000	150,000	0
正会員会費収入	7,732,000	7,683,000	△ 49,000
三ヵ年経過未収会費	△ 200,000	△ 898,000	△ 698,000
未収会費貸倒	0	△ 3,574,890	△ 3,574,890
総会費収入	1,400,000	705,310	△ 694,690
懇親会費収入	0	67,000	67,000
活動振興費収入	0	5,544,000	5,544,000
寄附金収入	0	2,709,077	2,709,077
受取利息	272	67	△ 205
事業活動収入計	9,082,272	12,385,564	3,303,292
2，事業活動支出			
①事業活動収入計			
定期総会費	800,000	554,645	△ 245,355
理事会費	300,000	602,797	302,797
活動振興費	6,575,000	7,690,187	1,115,187
会報印刷配布費	700,000	783,675	83,675
事業費支出計	8,375,000	9,631,304	1,256,304
②管理費支出			
事務局員給与	1,500,000	1,045,135	△ 454,865
渉外慶弔祝賀費	200,000	146,864	△ 53,136
旅費交通費	100,000	172,010	72,010
運営諸管理費	300,000	303,050	3,050
通信運搬費	700,000	312,446	△ 387,554
消耗什器備品費	50,000	0	△ 50,000
文具消耗品費	100,000	287,078	187,078
広告宣伝費	50,000	84,000	34,000
光熱水料費	50,000	49,565	△ 435
賃借料	900,000	975,000	75,000
保険料	20,000	0	△ 20,000
租税公課	0	600	600
法律事務所顧問料	378,000	378,000	0
法人申請準備金	0	0	0
会計事務所顧問料	164,000	164,000	0
諸手数料	90,000	89,270	△ 730
雑支出	0	10,146	10,146
予備費	250,000		△ 250,000
事業活動収入計	4,852,000	4,017,164	191,255
事業活動支出計	13,227,000	13,648,468	△ 1,894,605
事業活動収支差額	△ 4,144,728	△ 1,262,904	1,610,921
Ⅱ　予備費支出			
当期収支差額	△ 4,144,728	△ 1,262,904	2,881,824
前期繰越収支差額	4,144,728	4,144,728	0
次期繰越収支差額	0	2,881,824	2,881,824

正味財産増減計算書

平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
1　経常増減の部	
(1) 経常収益	
①受取入会金	
受取入会金	150,000
②受取会費	
正会員受取会費	7,683,000
三ヵ年経過未収会費	△ 898,000
未収会費貸倒	△ 3,574,890
③受取総会費	
総会費	705,310
④懇親会費収入	67,000
⑤事業収入	
活動振興費収入	5,544,000
④受取寄附金	
受取寄附金	2,709,077
⑦雑収益	
受取利息	67
経常収益計	12,385,564
(2) 経常費用	
①事業費	
定期総会費	554,645
理事会費	602,797
活動振興費	7,690,187
会報印刷配布費	783,675
②管理費	
事務局員給与	1,045,135
渉外慶弔祝賀費	146,864
旅費交通費	172,010
運営諸管理費	303,050
通信運搬費	312,446
消耗什器備品費	0
文具消耗品費	287,078
広告宣伝費	84,000
光熱水料費	49,565
賃借料	975,000
保険料	0
租税公課	600
法律事務所顧問料	378,000
法人申請準備金	0
会計事務所顧問料	164,000
諸手数料	89,270
諸雑費	10,146
経常費用計	13,648,468
当期経常増減額	△ 1,262,904
当期一般正味財産増減額	△ 1,262,904
一般正味財産期首残高	4,144,728
一般正味財産期末残高	2,881,824
Ⅱ　正味財産期末残高	2,881,824

鑑賞会 講演会

日本女子大学桜楓2号館
平成25年3月23日

「庭の顔、その裏表 ～時の流れに沿った庭の表情」 要旨

（社）日本庭園協会　名誉会長　龍居 竹之介

今回のタイトルも昨年同様、庭の見方の一面を探るという意味で付けたものである。

私は庭がとても好きで、色々と拝見してきた。庭は基本的にはどのように見ても良い筈ながら、庭園、建築、舞踊などというものは、この言葉の前に日本という字が付くと何だかとても難しいもののようになり、自由さがなくなる感じさえする。

だからそれらを眺め楽しむという場合も、つい別世界のことと考えたりしがちなのだ。しかし本来、これらはもっと気楽に接して良いものだと思われる。龍安寺の石庭は一方向から楽しみ、桂離宮や小石川後楽園などは庭の中を回って景色の変化を楽しむというように、庭それぞれで見方は違うわけで定まりなどない。

昭和初年に銀閣寺の奥まった場所に古い庭を見出した田中泰阿弥は、徹底的に石や石組などを研究しているが、「石組とは」との質問に禅問答よろしく「石に聞いた方が良い」と答え、「石は何と答えるか」と聞かれると「貴方まかせ」と答えている。要するに石自身の要求などはありえず、すべてはつくる人の感覚に従っているといいきっていた。

ところで庭らしいものは大昔から日本にはあったと思われる。それはわが国独自の自然観、四季の存在からくる輪廻観などを持ったものの筈であろう。それが中国、朝鮮などからの外来文化の影響を受け、例えば自由な線を駆使したデザインに幾何学的なデザインを加えるようになってそこから、都の建設、作庭のようすにも変化が出たのだろう。

しかしその影響で、あまりにも環境が規格化され過ぎると、力のある人々は心に馴染んだ自然に沿った庭や住まいを求め、都の中から郊外に目を移すようになったらしい。

石造品も元は舶来品だが、それらもいつしか日本になじんだものだけが、定着したように思われる。

そして庭のようすは時代とともに変わっていることも忘れられない。権勢を誇った平安貴族は寝殿造の住まいと庭を生み王朝生活を楽しんだが、浄土信仰の隆盛に伴って、住宅であった寝殿は阿弥陀仏をまつる仏殿にようすを変え、寝殿造式の庭もいつしか仏の世界を荘厳する浄土式の庭へと変貌している。しかしそれらは庭の意匠の面ではさして変わるところはない。むしろ京都の場合は水不足や経済上の問題から生まれた枯山水の台頭が、その後の庭に多くの影響を与えている。

水を使わずに水の景色を表現する枯山水は、単に風景を再現する庭とは異なり、デザイン力や材料を見る目、扱う技術の向上に大きく寄与していた。龍安寺の登場はこうしたようすを実によく物語っていよう。

そして研き澄まされたような感覚を集めた桂離宮の完成は、人々に庭の良さを再確認させた気配もある。

この庭は飛石、畳石などの園路や石燈籠など石造品の面白さも抜群だが、一面、これらが近代の庭の代表的な材料になる一つの足掛かりでもあったようだ。一方では庭を堕落させた本といわれる『築山庭造伝』などのような出版物が、逆に広く作庭趣味を普及させる役割を担ったりもしている。まさに庭の裏表だろう。

時の流れの中を行く庭として小石川後楽園を眺めると、すでに武家方の楽しむ庭でなく、誰もが楽しむ庭に変化している。その一面、地表の高さも変わり給水形態も変わるなどして元に戻らぬ庭とも化した。結局変化するのが庭の常なのでもある。

要は庭には鷹揚に接し、教養を高めながら、自身の心豊かに、周囲の人の心をも豊かにして行くのが一番良い庭への親しみ方なのであろう。

【技術の保存についての質問に答えて】

昔より進歩している部分をもっと見て新しいテクニックで造る平成の庭であるべき、使う樹木も今にあった植物をつかっても良い。

庭の性格は個人の場合はオーナーと相談したものになるが、公共の場合は好みと言っても集約的なものになるのは仕方が無い。

（要約…鑑賞会 副会長　高梨 節子）

会費納入のお願い

日ごろより、当協会の活動・運営にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。当協会は補助金や交付金などは一切受けておらず、運営は会員の拠出する会費のみでまかなわれております。今年度も皆さまの速やかな会費納入をお願いいたします。

■ 年会費：正会員　13,000 円／1 年
賛助会員　7,000 円／1 年
維持会員 20,000 円／1 口
（年度は 1 月 1 日～12 月 31 日が区切りです）

■ 振込先：郵便為替口座
00110-5-76081

鑑賞会　春季庭園見学会

初夏の日帰り庭園見学会 ― 駿河路の庭を行く ―

平成25年5月16日

藤枝　修子

平成25年5月16日（木）午前10時20分、東海道新幹線新富士駅に集合し、（株）エム・オー・エー・グリーン・サービスの中橋氏のお世話による大型バスで出発した。龍居竹之介名誉会長が同行され、時代変化の庭園への影響などのお話も伺った。午前中は、青山荘（旧田中光顕氏別荘で、現在は日本軽金属株式会社所有 静岡市清水区蒲原）と清見寺庭園（国指定名勝、静岡市清水区興津清見寺）、午後は、臨済寺庭園（国指定名勝　静岡市葵区大岩町）と柴屋寺吐月峰庭園（国指定名勝及び史跡庭園　静岡市駿河区丸子）を見学した。

清見寺にて

まず、青山荘は田中光顕伯爵1843～1939）が明治に至る変革期に重要な役割を次々とこなす中で、富士山に近いこの地を楽しまれたことが窺える。今は、民家に囲まれ、東名高速道路が山側を通っている。次いで、清見寺では、跨線橋を渡って山門に至る。建立は天武天皇の時代にさかのぼるが、臨済宗妙心寺派で、現在の主要伽藍は宝永年間に建てられ、書院と本堂との北面に急峻な山腹から瀑布九曲泉がかかり、家康公が駿府在城中にしばしば訪れ、贈った樹石もあった。第1回朝鮮通信使が1607年に来日した折に、家康公はここに泊めたとか。

東海道線によって分断された清見寺境内

昼食は明治24年から料亭になった浮月楼で「鮪ちらし寿し」を頂いた。お品書きには葵のご紋が描かれていた。ここは、代官屋敷跡で慶喜公が明治2年に遷居した。庭は小川治兵衛の作と聞いたが、時間不足で残念ながらゆっくりできなかった。

午後は、まず、臨済寺庭園を見学した。ここも臨済宗妙心寺派に属するが、この地方では寺格が最も高く、家康公が幼少期に学んだ部屋がある。庭園は小池の前に急峻な崖のように石積みや岩盤があり、その間に色々な緑色の木々が美しい姿をみせていた。目を高いところに転じると茶室が見えたが、希望者のみ見学した。木造の建物内には、若い修行僧が大勢おられ、古刹を見学している雰囲気を実感した。最後に、天柱山吐月峰柴屋寺を見学した。

山裾に展開する臨済寺庭園

風雅な造りで、古くから月の名所である。大きい樹木の間から遠景に富士を模した山が見えた。また、足利義政公より賜られた文福茶釜も見学した。

臨済寺の階段廊下

見学に熱が入り、予定の時間をかなりオーバーしたが、駿河湾、富士川、富士山のすばらしい駿河の国にあって、今のようにコンクリートや鉄に囲まれた風景から以前の美しい景色に思いをはせながら、解散の東海道新幹線静岡駅南口に戻った。残念ながら、富士山のすぐそばに居ながら、曇りのために結局一度も見ることができなかったが、庭園鑑賞には十分に満足した。色々お世話になった方々に感謝しながら家路についた。参加者は50名であった。

（鑑賞会　正会員）

（写真提供　高梨節子）

臨済寺にての集合写真

平成二十五年度

支部活動報告

愛知県支部／東京都支部
山口県支部

愛知県支部　講習会

平成25年3月16日・17日

第2回石積み講座（基礎編）

怒涛の二日間

西窪　周二郎

昨年の秋にも同会場（おしゃ楽常滑資材センター）にて開催された講習会なのですが、今回は木曽石の野面積みに加え、ベルギーのアルデンヌ地方から産出される硬質砂岩を使っての小端積みと二通りの実践がありました。私は小端積みに挑戦したのですが、とにかく文章では伝えきれないくらい奥深いのは勿論ですが、それ以上に楽しめた事が強く印象に残っています。

熱心に指導してくれた鈴木富幸講師

まず、石道具の種類、コヤスケ、はつり鑿、平鑿、石頭等の基本的な扱いから、実際に石を欠く上での周囲への気配り、そして差し石の作法を学びました。「石の顔」「石の芯」を見極める事が非常に重要で、石の気勢、石がどちらへ転びたいのか、この事を理解していないと石を積む事以前に石を選ぶ事すら出来ないのだと実感しました。そういった基本を学んだ上での実践、根石と全体の大、中、小のバランスや、縦目地、四つ目地、団子積みにならない様に注意し、角石は内勾配の算木積みにして、機能とデザインを両立させるのには、とても難しく、勉強になりました。熟練の方は材料を選んでいる時点で完成のイメージが頭に浮かんでいて要所、要所の石の配分、見た目の美しさは勿論の事、選んだ石がほぼ無加工で座っていくと言う話には驚きました。

研修会場風景

初日の夜には懇親会も行われ、全国から集まった方々と交流を持てた事も本講習会の魅力だと思います。私個人としては縦、横の人との繋がりあいを、これからもっともっと広げていきたいと思っているので、とても有意義な時間でした。その時の小泉講師の言葉「いくら講習会といえども、おしゃ楽さんが提供して下さった石材をやみくもに加工するのではなく、しっかりと合う石を見極め、一石一石を大切に扱ってほしい」にはハッとしました。私は遠慮なく加工していたので、そこまでの考えに至っていない自分に情けなさ、恥ずか

しさ、そして石材を用意して頂いた、おしゃ楽さんに対して申し訳なさを強く感じました。

怒涛の二日間でしたが、惜しげもなく技術を教えて下さった講師の皆様、色々と協力して下さった、おしゃ楽スタッフの皆様、一緒に一つの形を築いた受講生の皆様、本当にお世話になりました。有難う御座いました。ここでの経験を活かして今後も日々精進して行きたいと思います。ちなみに次回は10～11月頃開催予定みたいなので、再びお世話になりたいと思います。

（神奈川県支部　正会員）

天候にも恵まれ充実の２日間でした

東京都支部　講習会
平成25年4月7日

「日本庭園と石造美術品」と対談「石工の技―創造する伝統」を聴いて

鈴木 貴博

去る4月7日、文京区目白の日本女子大学桜楓2号館にて、京都造形芸術大学教授 尼﨑博正先生による講演会が催されました。

会場で配布された資料に目を通しながら講義が進んでいきました。

その中で興味深かったのは、石燈籠の露地への導入を千利休が社寺の献燈具という本来の目的を払拭し「見立て」として庭の照明具に採用するという点でした。斬新かつ刺激的な発想を庭に取り入れたからこそ、それ以後燈籠は自由な展開を遂げ日本庭園の構成に必要な要素になった。このような話を聞くと、現代の庭造りはこうあるべきなどと制約で自分を縛らず、もっと自由な発想を持つことも大事だと思うことができました。

江戸時代に書かれた「築山庭造伝」の話もあり、この本が当時の庭の標準モデルになり、この流れが現代でも日本庭園の一般的なイメージとなってしまっていて賛否両論があること。自分はこの本を見たことがないので何も言えませんが、この傾向は庭や外構デザインの標準化、パターン化に近いものがあるのかなと思いました。

汲めども尽きない尼﨑博正先生のお話でした

提案、監理、施工側・発注側としては決まっているほうが悩まなくてある意味効率的、経済的なのかもしれませんが、いつの時代でも色々な考え方があるので、一概に何が良い、悪いと線引きしないことも必要なのかとも再確認させられました。

石燈籠の時代による石質や形状の変遷の話はとても興味深く、いくつかの例をあげると、竿のホゾと基礎のホゾ穴の関係では、飛鳥時代ではホゾ穴は基礎を貫通していたが、時代の変遷で現代に近付くにつれホゾ穴が浅くなったり無くなったりしていること。硬い花崗岩の加工技術が無い奈良時代は凝灰岩で造られていたこと。形状では、八角型が最も古く、平安末期から六角型が出始めたこと。蕨手や返花、格狭間の模様の時代による特徴などで、造られたおおよその年代が判るということも、とても勉強になりました。

当時の時代背景なども話されながらの講義でしたので、とてもわかりやすく聴くことができました。

尼﨑博正先生と西村金造氏との対談は講演会と同じ会場で催されました。お話の中でかなり興味深かったことがありましたので書かせていただきます。

重機もない時代、石材を入手する一番簡単な方法は川に行って玉石を採ってくることだそうです。なぜ玉石かというと、山から転がって川でもまれるうちに密度があり硬い部分が玉石となって河原に残るから、という説明に納得させられました。

身振り手振りで熱く語る西村金造氏

飛鳥、奈良期の石造品が風化しやすい石質でも現存しているのは、玉石を彫って作ったからではないか。という説明もあり、昔の石工の知恵や技術を想像することができました。

また、電動工具のない時代に石に長く丸い穴をあける方法も説明をうけました。

イチョウの葉の形をした「まわしのみ」を取付けた細長い棒で少しずつ削り、掘り進めるごとに長さの違うものと替えながら掘っていく。というもので、とても根気のいる作業でした。

このような話を聞くと、古い石造品の仕上がりを見るときに、石工はこのあたりを苦労して加工したのだろう。などと想像しながら今後は見学できそうで、勉強になりました。

各地から参集した大勢の方々

西村氏は「ほかす石ほど大事にせい」と、「加工した石材の破片も使える貴重な材料だから有効に使いなさい」とか、彫刻家イサム・ノグチ氏との当時のやりとりも交えて話してくださいました。先日の連続講座でも、捨ててしまいそうな薄い石材を丁寧に加工して使われている講師の施工例を見させて頂きましたが、石は手間を掛けると必ず応えてくれるのだと教えられ、これからは端材も簡単に捨てずもっと活用していこうと再確認させられました。

後半には、スクリーンに映しだされた図解の前に立ち、身振り手振りで石材を飛び矢で割るときの矢穴の角度や、のみの種類の使い分けについて説明をしてくださったときは、本当に石が好きで自分の仕事が好きな雰囲気が伝わってきて、自分も年齢を重ねたときにこんな雰囲気をもてる人になれればいいなと素直に思えました。いつか白川に伺って作品を間近で見てお話ができるようもっと勉強しなければと思いました。

尼﨑博正先生、西村金造先生、貴重なお話をありがとうございました。講演会に参加できたことを感謝しております。

（東京都支部　正会員）

神奈川県支部　庭園見学会
平成25年5月19日

福住豊氏作庭の庭園を訪ねて

庭と人との関わり合い

座間 友和

新緑がまぶしい5月、支部主催の庭園見学会に参加しました。福住氏の作庭した庭園を本人自ら案内して頂き、技術的な解説やエピソードで和やかな雰囲気の見学会でした。

今回訪ねたところは相模原市にある臨済宗香福寺の庭園と横浜市内の個人庭園の二箇所です。香福寺庭園は近隣の住民が気軽に散歩が出来るよう開放され、夜間も安全に歩けるよう園路に照明が設置されているのが印象的でした。雑木の庭は季節により大きく雰囲気を変化させ一年中いつ見ても新鮮な新しい発見が出来、こういう開放された庭園にも相性が良いと思いました。

さわやかな雑木の新緑

存在感のある大きな御影石の門壁

横浜市内の個人庭園は高低差を生かした大胆な地割りと細部の作りこみに福住氏の作り出す世界観を感じ鳥肌が立つ思いでした。門や竹垣の構造においても昔の工法だけにとらわれず、時代の流れに臨機応変な感性には感心するばかりでした。

庭と人との関わり合いを探求しそれを発展させていくことが私のこれからの課題であると感じました。

（神奈川県支部　正会員）

雑木と流れの調和が心地よい庭

鈴木 康幸

新緑が美しい5月に神奈川県支部主催の庭園見学会に参加しました。

飯田十基先生の下で修業された福住豊氏が作られた庭には以前から興味があり実際に自分の目で観ることができるというこの日を心待ちにしていました。

最初に訪問したのは相模原市の橋本駅から歩いて10分ほどのところにある臨済宗建長寺派の橋本山香福寺の庭園でした。流れと池のある落ち着いた雰囲気で全国各地から集めた石を巧みに使った流れは雑木となじんでいて見事でした。このお寺は誰でも見学ができ、夜も開放されているため市民の憩いの場になっています。

当日も子どもたちが水遊びをしていて、近隣に溶け込んだ、なくてはならない場所だと感じました。

朝食後マイクロバスで横浜市泉区に移動し個人邸庭園を見学しました。

大きな御影石の一枚岩の門壁と福住氏がデザインした門扉は圧巻で、筑波石敷きの駐車場も存在感があり、車がない時でも景色をつくってくれています。

水音が心地よい流れ

次に伺った個人邸は高低差のある敷地を巧みにデザインした滝と流れと池で構成された芝庭で、近景の雑木の寄せ植えを通して見る滝や流れは実際以上に奥行があるように感じられました。そして随所に見られる石組の石の勢いというか迫力も大変魅力的でした。

久々に私にとって大変勉強になった一日でした。

なかなか見学をすることができない個人邸の庭園ですが、作者の福住氏、企画してくれた神奈川県支部の方々に感謝申し上げます。

（東京都支部　正会員）

宮城県支部設立される

高橋 康夫

平成25年6月15日（土）、宮城県支部の発足会が仙台市の「パレスへいあん」で開催され、支部の発足に金子会長と一緒に立ち会いました。

東日本大震災の影響などにより東北支部は4月7日（日）に行われた総会をもって解散しましたが、その席上でも東北から日本庭園の灯を消したくないという声が上がっていました。

その解散からわずか2ヶ月で宮城県支部が立ち上がったのです。未曽有の災害にも負けない「東北魂」が早期設立に繋がったのだと会場で実感しました。

発起人は10名。宮城県を中心に「日本庭園」を愛する作庭家が駆けつけました。支部長に菊地正樹氏を選出し、県外者であっても会員2名の推薦があれば入会できる正会員と支部活動のみに参加する会員で構成される柔軟な組織としてスタートしました。

会設立の趣旨の中には、被災者の供養と大震災からの復興を願い、東北に名園を作庭することを目指すとともに、そこを若手育成の実践の場として「伝統庭園技塾」を開催する構想が盛り込まれています。

宮城県支部が設立されたことにより、日本庭園協会の活動はさらに大きく広がり、新たな展開が期待できます。

発足会の締めでは支部への支援はもとより、日本庭園協会のさらなる発展のために支部と本部が一体となり邁進して行こうと参加者全員で確認し、宮城県支部は力強い第一歩を踏み出しました。

（常務理事）

金子会長を囲む設立メンバー

支部便り⑭　大北 望 氏作庭庭園見学会

山口県支部　殿井 正敏

我が山口県支部は平成12年、常務理事（当時）の鈴木直衛氏の肝いりで設立発足致しました。私は「庭」誌上で伝統庭園技塾等の活動に大きな関心を持っていましたから、早速、県内の庭を愛しその発展を担う仲間に呼びかけ、下関の御裳川別館において龍居竹之介副会長（当時）、鈴木直衛常務理事（当時）にご臨席いただき設立総会を開催することができました。三宅秀俊岡山県支部長、小野登身広島県支部長（当時）も出席して下さり誠に身の引き締まる思いで終了させたことが昨日のように思い出されます。

大北氏の説明に耳を傾ける

生野丹波石による層積み

山口県の地域性についてですが、山口市周辺と下関市周辺とに大別されますが会員もその地域で活動することが多いのです。築庭も一戸当たりの土地が比較的狭い下関地区は当然ながら小庭が多く、石も樹木も小振りで雑木も多く植栽します。周南、山口、防府地区は敷地も広く、大木や大岩を多く使用する庭が目立ちます。最近はご存知の方も多いかと思いますが山口市の坂本氏が日本庭園のテレビチャンピオンになり大活躍をしています。

今年度の研修旅行は姫路を中心に広範囲に活躍されている大北望氏の作庭した庭園を見学することが目的で13名の参加でした。（山口会員9名、他2名、愛媛1名、広島1名）大北氏の人生観、宇宙観、自然観を拝聴しながらの見学は意義深く心に響く2日間でした。大北氏にはご多忙の中、貴重な時間を割いて最後までお付き合い頂きました。大変ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。

あずきミュージアムの池庭

設立時の会員数からは10名減少してしまったことは残念でなりませんが、今後は会員が興味を持ち実利にも添えるような企画を立て、研修会、講習会等を開催することが私に課せられた使命だと思っています。私を支えてくれる副支部長の岡野氏、幹事の笹尾氏、会計の畑間氏の3人は非常に優秀で今後の支部活動の原動力になってくれるものと頼りにしています。他支部の会員の皆さん、山口に是非いらして下さい。

（評議員　山口県支部長）

三木美術館前で、大北望氏と見学会に参加した仲間達